

秋山博頌徳祭

秋山博と村井弦斎との出逢い資料展



秋山博頌徳祭 (旧墓前祭)

日時 = 令和6年3月20日(水) 10:00~

会場 = 寂静寺 平塚市南金目1787

秋山博と村井弦斎との出逢い 資料展

日時 = 令和6年3月17日(日)~20日(水) 9:00~16:00

会場 = 平塚市立金目公民館 平塚市南金目966 0463-58-0101

ギャラリートーク

画像上映・紙芝居・講話等

日時 = 令和6年3月17日(日) 10:00~12:00

会場 = 平塚市立金目公民館 2階集会室

主催 = 金目エコミュージアム

共催 = 金目自治会連絡協議会・金目地区社会福祉協議会

協力 = 神奈川県立盲学校・村井弦斎まつり実行委員会

秋山博どんな人

秋山博は13歳の時、天然痘で失明し、南金目の鍼医与野竹次郎に学び、20歳で南金目に開業する。明治・大正において、多くの患者への施術と後輩・同輩に技術とその精神を指導し、盲人への学校設立を献身的に一生をささげ、「福祉のまち金目」はじめ平塚・神奈川県之宝として多くの人に感謝されています。

資料展では、「福祉」という言葉もなかった頃その「さきがけ」として活躍した秋山博とその活動を支えた人たちを中心に紹介します。

村井弦斎どんな人

村井弦斎は明治後期から昭和の初め頃にかけて平塚（16,400坪）に住み、多彩な著作活動を行い、多くのユニークな作品を残した新聞記者（報知新聞）であり作家である。

歴史・戦記・空想・化学・発明・家庭・少年・実録など、さまざまなジャンルの小説や評論を書いて人気を博し、大衆作家の先駆けともいわれました。

小説「食道楽」が売れ、平塚東濱嶽で畑を作り「食道楽」を実践した。

月刊雑誌「婦人世界」の編集顧問に迎えられ数多くの作家との出逢い、政治家、実業家との付き合いも多く活躍しました。

秋山博と村井弦斎との出逢い

村井弦斎は「婦人世界」明治45年10月秋季「をりをり草」にて秋山博を紹介しています。

「をりをり草」						村井弦斎						
を	り	を	り	く	さ	む	ら	い	げ	ん	さ	い
○	●	○	●	●	●	●	○	●	○	●	○	●
○	●	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

秋山博といふ鍼医は、相模国の隠君子（いんくんし）で、その人格の高潔なること実に敬服すべきものがあります。

秋山氏の鍼といつては相模一国に有名なるのみならず、遠く甲州信州駿州尾州辺から治を乞ひに来る患者が金目村へ群衆して、金目村の旅館は秋山氏のために生活しているといふくらいです。その門人も相模一国に散在し、秋山氏の門人といふ肩書だけでも既に患者の信用を博し得るほどですから、秋山氏にして一たび都会か市村の繁華な地に出でしめば、忽ち名声天下に馳せて、富貴榮達意のままになるでせうが、秋山氏は名利に冷淡な人で、門人の出世をこそ悦びますが、自分はいつまでもその出生地たる中郡南金目村を離れません。

私が最初秋山氏を知ったのは、私の三男の四歳になるのが、感冒より軽症の肺炎を起こした後、腰が痛み出して一時は歩行するととができませんでした。大学の名医達に診てもらったが治療法に困りました。

金目村の秋山氏といふ鍼医が、斯かる病人を治するに妙を得て居ると聞きましたから、早速秋山氏に来診を乞ひました。

秋山氏は、三男の身体を検査して、これはやはり脊髄麻痺から来たのでせう、功が有るか判りませんが鍼を打ってみませうと、腰から脚部へ鍼を打ち始めました。打ちこんで行くうちに、好い心持になってスヤスヤ眠ってしまいました。門人に局所を教えて引続き鍼を打たせましょう。

小児の足はめきめきと快復して肉もついてきました。